



なきごえ



1989

5

大阪市
天王寺動物園協会

奥村 彪生



私は特別に動物に関心はなかった。関心を持つようになったのは、子猫のミーがきてからである。次男がまだ中学生のころ、ガールフレンドが、捨てられたヨチヨチ歩きの小猫を拾

ってきて我が家へ持ちこんできた。息子が猫を欲しがっていたらしい。その日は日曜で、私の教え子達が犬勢押しかけてきていた。その子猫を見るなり「イヤッ、カワイイッ！」と喜声を発し、大はしゃぎになった。見ると、目はくるっと丸く、顔立ちがよい。お尻を見るとオスである。コラ、美男猫になる、と直感。将来のスターを祝福するためにシェイプ・アップすることになった。家内と息子は子猫ちゃんを新聞紙の上に座らせ、ノミとり粉をふりかける。280g の小さな体に宿った吸血虫ノミは、出るわ出るわ、計14尾。美男猫の幼い血を吸うとはケシカラヌと、親指の爪でプチプチ押えて死刑。その儀式が済んでから入浴をさせる。たらいに湯をはり、シャンプーをかけて洗毛。シャンプーを洗い流してリンスをかける。ドライヤーで毛を乾かすと、ピッカピッカの美小猫。名をミーとつける。ミーが来たころ長男は反抗期でむつかしい時期を迎えていた。人間不信というか、学校の先生をきらっていた。何度親子で話し合ったことか。それでもだめだった。この子がミーにとりつかれ、溺愛するようになる。夕食に刺身が並ぶと自分は食べず、先にミーに食べさせる。焼魚でも同様。おいしいものは何でもミー。日に日にミーは大きくなり、毛並も艶もよくなり、顔立ちもますます美しく、近所で一番の美猫と呼ば

れるようになった。

ミーが大きくなるに従い、長男も笑顔を取りもどし、心の片隅に追いやられていた、人間としてのやさしさが、日に日に蘇えって来るのがありありと見えた。一年経過したころには、すっかり立ち直り、快活にふるまうようになった。家の中でも明るくなった。長男のことで気がめいていた家内も安堵して、美しくなった。私が果し得なかったことを、ミーがやった。一匹の捨て猫の存在は我が家にとって大きい。家族の絆を強くしてくれた。この事実からいうと、動物園はその役割を荷っていることがよく理解できる。

家の中を明るくしてくれたミーが、一番あまえるのは長男と家内。飼い主の次男にはキリッと姿勢を正して接し、私にはそっけない。食卓の椅子でも、コタツでも、私のいない時は主人顔して座っているが、帰宅して靴音がするだけで飛びのき、座をあける。よりそってへつらうのは家族のためににぎりずしを土産にした時だけだった。ミーはにぎりずしが大好物でワサビの効いたのをことのほかよるこんだ。中でもトロ鉄火を好んだ。えらく口がおごってしまった。削りカツオやちりめんじゃこを与えると、フンッ、何だこりゃ、といわんばかりふりむきもしない。そのくせ今夜の肴にとイカナゴのゆでたのをあぶっていると足にまといついてくる。それも焼くだけではだめで、トウガラシを効かせた二杯酢に漬けたものでないといけない。こやつ人間だったら大酒飲み、だなんて笑うこともあった。

美食が過ぎて4kgになり、とうとうじん臓病で去年の春なくなった。その時は、骨と皮だけだった。硬直したミーを長男はだきかかえ、小猫のころ共に遊んだ思い出の場所を巡り歩いて庭の片隅に埋め、花を供え、線香を焚いて合掌。今ミーは咲きみだれる山椿の花の下に静かにねむっている。

(伝承料理研究家)

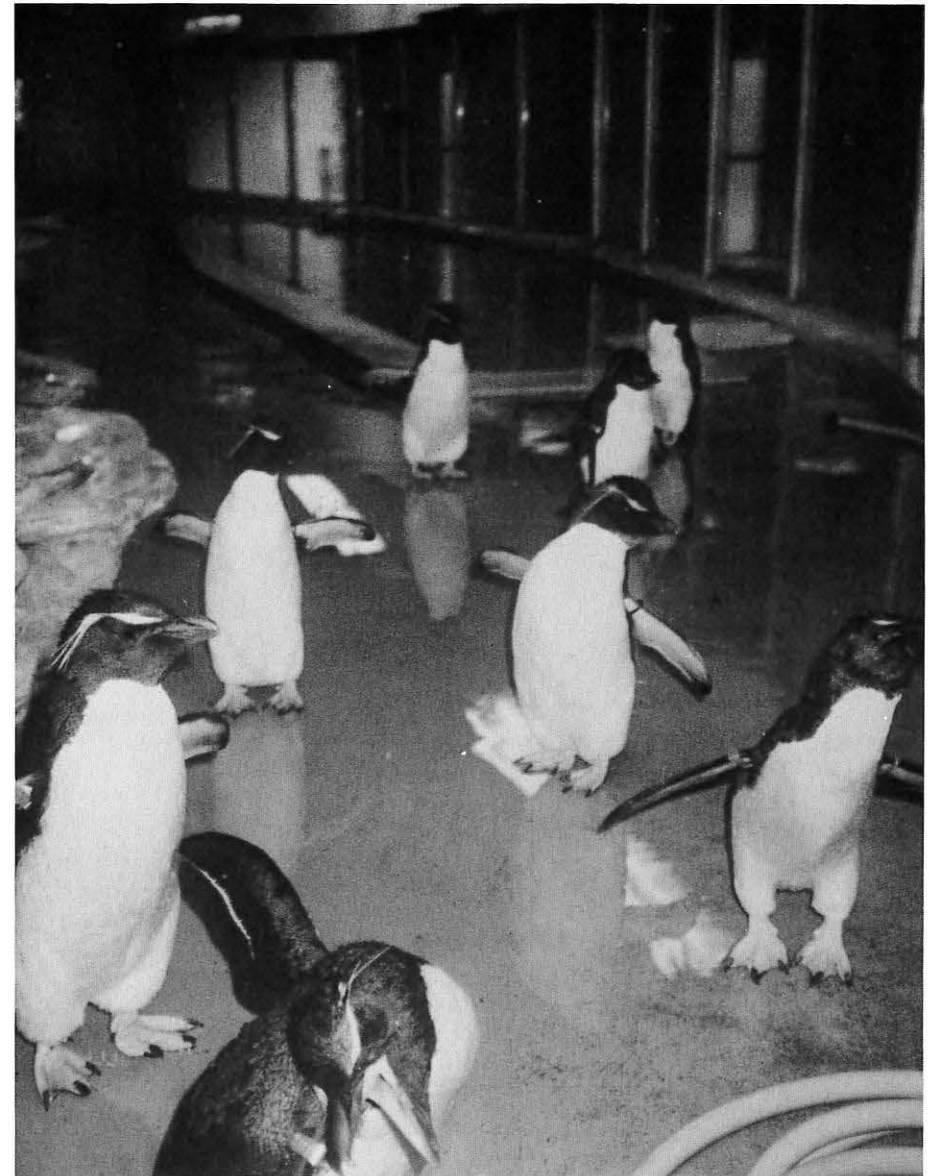
なぎごえ5月号もくじ

動物と私 2
イワトビペンギンの入園 3
動物園グラフ・動物園日記 4-5
アシカの飼育 6-7
アメリカの動物園の教育活動 8-9
キーパーズ・アイ 10
動物園ニュース 11

表紙の写真説明

“ホンドギツネ”

アカギツネの日本産亜種で、本州、四国、九州に分布します。機敏な動作の上に好奇心、警戒心が強く、早朝・夕方によく活動します。現在、自然破壊とともに次第に生息数が減りつつあります。(飼育課：森本 委利)



“イワトビペンギンの入園”

3月11日、イワトビペンギン9羽がお目見えしました。今は、他の仲間に慣れる様に訓練している最中です。みなさんの前に、ヨチヨチ歩きのかわいい姿がみられるのはもうすぐです。

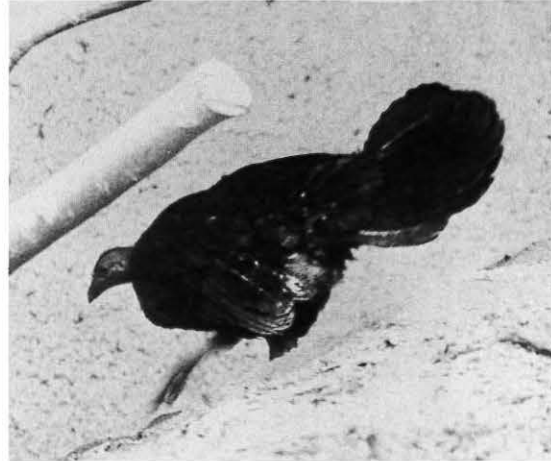
(撮影：土谷 正道)

動物園グラフ

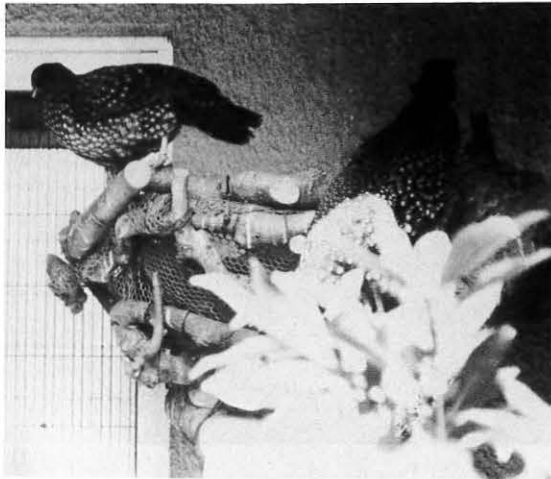
ワライカワセミ舎とキジ舎も繁殖シーズンを迎え、巣作りやディスプレイが見られます。今年もかわいいヒナ達が誕生しそうです。(撮影：野口 秀高)



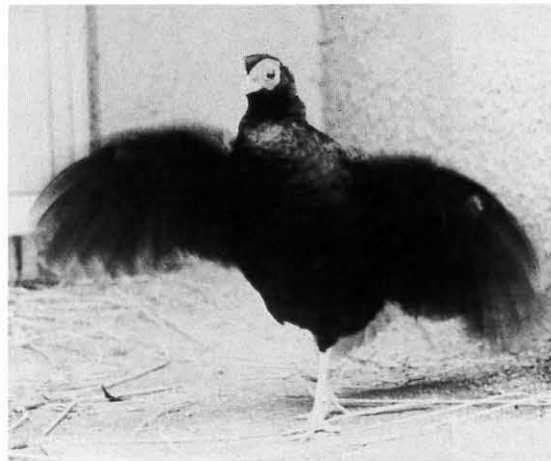
ワライカワセミの巣と卵。



ヤブツカツクリの巣作り。



巣の上のベニジュケイのオスとメス。

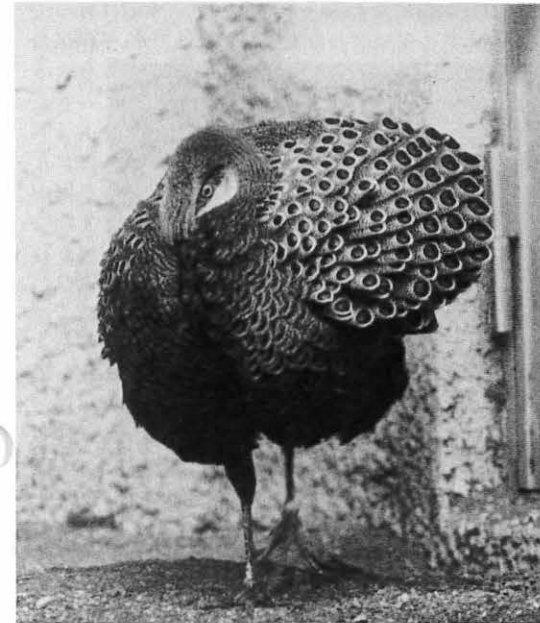


ウチワキジのオスのディスプレイ。

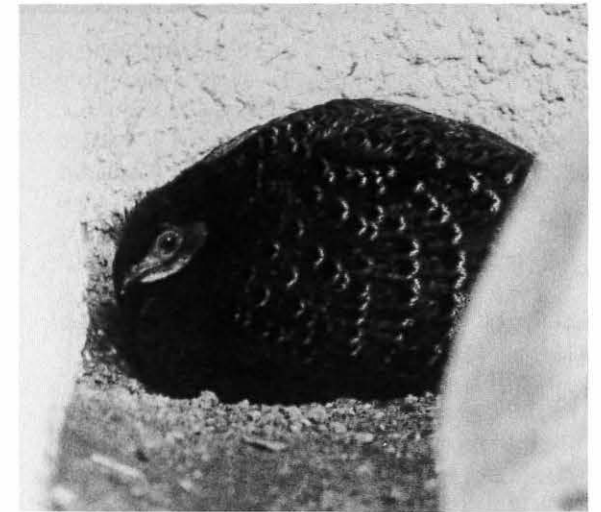
2・3月の動物園日記

- 2 / 28. ホッキョクグマのオスとメスを1年4ヵ月ぶりに同居させました。
- 3 / 1. キーウィ4羽の体重測定を行いました。コジャコウネコが交尾しました。コンドルのメスが優勢となり、オスをつつくので、メスの方を隔離収容しました。
- 3 / 3. 保護で元気を回復したツグミ2羽を、自然復帰させました。
- 3 / 5. タンチョウが交尾しました。
- 3 / 6. ワライカワセミが2卵目を生みました。

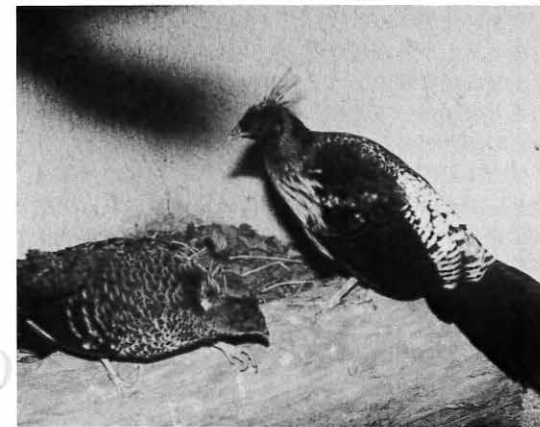
- 3 / 7. 本年生まれのカリフォルニアアシカの体重測定を行いました。
- 3 / 9. 今月生まれのヒツジ及びヤギ計4頭に個体識別のため、耳標をつけました。
- 3 / 10. ホッキョクグマ、オランウータンが交尾しました。ワライカワセミが、3卵目を生みました。
- 3 / 11. 新しくイワトビペンギンが入園しました。
- 3 / 12. 新しく入園したイワトビペンギンの体重測定と個体識別のためのカラー翼帯を付けました。またエサ(小アジ)を自分で食べないため、強制給餌も実施しました。
- 3 / 12. コブハクチョウ、コサンケイ、フクロウが



ハイロコクジャクのディスプレイの始まり。



抱卵中のハイロコクジャクのメス。



巣を作り始めるミヤマハツカン。



コサンケイの巣と卵。ヒナの誕生が楽しみです。

- 産卵しました。
- 3 / 13. ナベヅル2羽と、昨年生まれのタンチョウ1羽の性別を鑑定するため、採血を行いました。
- 3 / 15. オランウータン、ホッキョクグマが交尾しました。
- 3 / 16. ハワイガンは4羽抱卵していましたが、そのうち3卵は順調にふ化しなかったため、残る1卵をふ卵器に入れ、強制ふ化させました。
- 3 / 17. ブラックバックのオスが1頭生まれました。新しく入園したショウガラゴのメスをオスと同居させました。昨日ふ化したハワイガンの餌付けを開始し

- ました。
- 3 / 18. 歩行がうまくできないため隔離治療を続けていたインドガンが、回復したためバードケージ「鳥の楽園」に戻しました。
- 3 / 19. 動物のお話とスライドの会「動物園うら話」を開催しました。
- 3 / 20. ホッキョクグマが交尾しました。
- 3 / 21. ジャガー、オランウータン、ホッキョクグマ、オオサイチョウが交尾しました。チンパンジーの検便を実施しました。
- 3 / 23. リスザル6頭が入園し、検疫を始めました。
- 3 / 25. ブラックバックのメスが1頭生まれました。
- 3 / 28. ヨーロッパフラミンゴが12羽来園しました。

私がアシカの飼育担当になったのは昭和49年だったと思います。この年の5月15日から6月26日の間にアシカの赤ちゃんが4頭生まれました。いずれもめずでしたが、このうち3頭は生まれて1カ月程で死亡してしまいました。6月15日に生まれた1頭だけが親の乳を飲んで成育し、翌年の春まで親といっしょにいましたが、母親も次の出産を控えており離乳をさせることにしました。隔離プールはアシカ舎の陸上部の片隅に2m×2mの広さのフェンスの囲いを作って離乳させました。幸いこの仔は15日間で離乳に成功し、51年7月に鴨川シーワールドへ雌雄交換として出園していきました。

50年にも3頭のアシカの出産があり翌春にも同じ隔離プールで離乳をさせました。離乳はまず母親から仔アシカを分離して囲いに入れてやり、生きたドジョウを小プールで泳がせるのです。動くものに興味を持つアシカは、ドジョウがヌルヌルと動くのに大変興味を示すのです。また、口にくわえるとキュッと口に巻く感触が面白いのかすぐに採食するようになったのです。しかし、その後、この仔たちは相次いで死亡してしまいました。どうやらドジョウにひそんで

いた寄生虫がアシカに寄生したのだと思います。

昭和51年7月鴨川



シーワールドとの交換で当時推定8才の雄(シロ)が仲間入りしました。この雄はその後アシカ池のボスとして君臨し、60年1月に死ぬまでに20頭の赤ちゃんを繁殖させました。現在、毎年赤ちゃんを産ませているボスのナポレオン(昭和55年6月生まれ)もこのシロの血を受けついでいるのです。ナポレオンは当園のめすととの間に60年6月に初めての赤ちゃんを産ましております。ふつうアシカの雄では5~6才になると性成熟に達するのです。

先代のボスのシロは鴨川シーワールド時代からホースや物をよくかんだと聞いていました。死ぬ6カ月前から削瘦が目立ちはじめ冬にアシカ舎のトンネルで死んでいるのを発見しました。死んだシロの胃からは約10kgもの小石の他に乾電池なども出てきました。入園者が投げ込んだ小石を魚と間違っただけで飲み込んだのがたまりたまってこんな量になったのでしょう。なんと悲しい出来ごとでした。

☆ 私が10数年アシカを飼育してきて親につけたまま仔が自然に親と同じ餌のアジを食べるようになったのは昭和55年5月に産まれた雄の個体1頭だけでした。その他はすべて隔離プールに分けて金魚や活

鱈から餌付けをしなければなりません。それというのも当園のアシカ舎は全面積756㎡、プールだけでも420㎡、と広いことと、アシカ池に行つて餌を与えても成獣が我先に魚を取るの、子供は食べようとして倒れたり餌がすでに無かったりしたこともよると思われます。

その後アシカ池での隔離プールの他に象舎横にも離乳用プールを作ってやりました。

☆ アシカの成育

アシカの赤ちゃんは毎年5月下旬から6月下旬頃に岩穴の中で生まれます。生まれた赤ちゃんは7~8kgの体重で灰色の毛が生え、親をそっくり小さくしたかわいいものです。赤ちゃんはたいがい生まれたその日からミルクを飲みはじめます。アシカには腹部に4つの乳頭があり、この乳頭を交互にすうのですが、母アシカは横になって前ビレを上げたりして赤ちゃんが乳頭をさがしやすいようにしてやります。他の哺乳類のように乳房は出ていませんが、乳頭をさがしあてると赤ちゃんは遠くからでも聞えるくらいチュウチュウと音をたてて飲んでいきます。生後3~4日間は母親は赤ちゃんにつきっきりで餌を取りにプールに入ることはほとんどありません。生後1カ月くらいたつとミルクを飲まず回数も減ってきて昼間は割に長く子供から離れていきます。

アシカの成長を把握するために定期的な体重測定をしています。プール清掃直後は水がありませんので容易に玉網で捕獲できるのです。小さいときはあまり動かないので計りやすいのですが、大きくなるにつれてハカリから逃げ出すので、麻袋に入れたり、玉網の中に入れて私が抱いてハカリに乗って計る方法をとっています。こうして生後10カ月頃まで体重の増減をみながら親の乳が出ているかを慎重に観察していくのです。



☆ 離乳 1) 生きた魚に対する興味

生後10カ月まで成長してきた仔アシカを隔離プールに移します。ここでは生きた金魚、鮒をプールに泳がせます。こうして1週間くらいすると空腹からか、動く魚に興味を持つためか魚を追いかけるようになり、次に魚をくわえて殺すことを覚えるようになり、魚の頭部をかじったりして魚がミンチ状になり、これをなめとるようになるのです。こうして金魚や鮒を食べることを覚えると今度は活魚センターから購入した活鱈をプールに泳がせ食べることを覚えさせるのです。次に活鱈を殺して与え食べさせる段階に移り、鱈を1時間くらい冷蔵庫に入れたのを与えるというふうにならしていくのです。これがうまくいくと、市場で鮮度のよい鱈を買ってきて与えるのです。

これも2~3日で食べるようになるので、親と同じ冷凍鱈を解凍したものに移っていくのです。



2) 母親の乳が充分出ないとき

17才という高令で初産したアシカがいたのですが、この個体は腹膜のヘルニアがあったのか、その赤ちゃん(S57年6月出産)は他の親の子に比較して体重が半分以下(12kg)と成長が悪かったのです。この場合、母親と同居させながら一時的に捕獲して水生哺乳動物用ミルクを人工的に哺乳させました。生後51~53日令までは人用哺乳ビンを用いたのですが、その後はカテーテルで強制哺乳をしました。この努力で体重は順調に伸びましたが、もはや母親につけながら続けることが困難となってきたので、生後90日令で隔離プールに移しました。哺乳量も1.3~2倍を与えたのですが、体重が下降しはじめたので、106日令から哺乳を中止し鱈の強制給餌にきりかえ離乳を計ったのです。生きたフナは108日令で、冷凍アジは、

114日令で自力採餌し離乳に成功しました。その他に宮島水族館から



来た雌も高齢出産で、赤ちゃんの発育が悪くこうした方法で餌付けを行いました。

私が一日の仕事を終えて帰るときはいつも仔アシカの顔を見るのですが、元気は今一つで、明朝は死んでいるかもしれないと思う日の連続でした。離乳後の成長も良くなく、体毛がぬけて冬など痛々しい感じもありました。その後、なんとか成長し、昭和57年生まれについては6年後に小樽水族館に婿入りし、同様に昭和62年生まれについても体毛も生えて、現在当園のサブボスとして健在です。

3) 生きた魚に興味を示さない仔の離乳

アシカの赤ちゃんもいろいろ性格があるようで、いつもの金魚、鮒に全く興味を示さないのがいるのです。一昨年生まれの2頭はこのタイプで、1日1回捕えては生鮒や鱈を5~10匹、強制的に口に挿入してやりました。その作業は大変でしたが1頭は15日、他は27日で自力採食しました。27日間を要した仔は隔離時31.5kgあった体重は自力採食時には20kgに、他の1頭は36kgの体重が31.5kgに減少していました。

☆ 離乳のまとめ

自然界ではアシカの仔は母親のミルクを飲みながら、母親から餌の魚をとるのを学習していくでしょう。他園でもアシカの離乳には大変苦労しているようです。死んでも当然と思われる小さな個体がうまくいき、体重もそこそこ成長しているのに隔離して1日目にアシカがおぼれ死にす



るなどいろいろ体験してきました。また、生きた魚に興味を示さない仔をいつまでも空腹にして自力採食を待つのも、体力の消耗から肺炎をおこすなど苦い経験も多かったです。隔離してからすぐに強制的に鮒、鱈を強制挿入して味を覚えさせるなど学習をさせる方法がいいのではないかと考えています。

今後は母親と仔を収容するサブプールを完備すればアシカの増殖に役立つと思います。

現在、当園のアシカ池には13頭のアシカがいますが、決して満足できる数ではありません。しかし、ボスも若く雌たちも他園とのトレードで若がいりを計っていますので、繁殖は今後も大いに期待できると思っています。

(飼育課：東 政宏)

成島悦雄

やや旧聞に属しますが、1987年から1988年にかけてアメリカを中心に動物園を見学する機会に恵まれました。アメリカの動物園を見学していると、いろいろな面で日本の動物園と違ったところが目につきます。動物園を舞台にした教育活動もその一つです。そこで今回は、アメリカの動物園はどんな教育活動を行っているか私の見た範囲でお話ししたいと思います。

一口に動物園教育といっても、その内容と活動方法は実に様々です。動物園の教育活動を大きく考えれば、動物解説ラベル、タッチテーブル、動物を使った各種の動物ショー、展示場での飼育係の話なども動物園教育の一種と言えるでしょう。しかし、紙数の制限もあるため、ここでは動物園内の教室やホールでの活動を中心にお話ししたいと思います。

アメリカの動物園には、動物園の動物と展示環境を材料にした教育を担当する部門が設けられています。この部門はほとんどの動物園で2~3名のスタッフから構成されています。スタッフは女性が多く、教師の資格を持っている人もいました。彼らの主な仕事は動物園を舞台にした教育活動のプログラムを組むことで、実際の教育活動は、動物園ボランティアに任されているようです。動物園教育の主要テーマは、動物と生息環境との関わり合い、ひいては人と自然との関わり合いについて学ぶことにあるようです。

① 学校のクラスのための教育活動

アメリカの学校教育カリキュラムは、日本に比べると教師の自由裁量に任されている部分が多いようです。クラス単位で動物園に来るのは普通で、日本



ニューヨーク動物学協会が出版した教育キットのような学年単位でそろっての遠足とは大分状況が

異なります。動物園の教育部門は教師に、動物園を生物や自然認識の場所として使ってもらうため、いろいろなプログラムを用意しています。なかでも、動物と環境の関わり合いや自然を守ることについてのテーマが多いようです。地域の教師の協力を得て学年別にテーマを決めた動物園利用の手引書を作っている動物園もあります。

② 教師のための教育活動

教師に動物園を教育の場として使ってもらうため、教師を対象としたセミナーが開かれています。このセミナーに参加すると資格(デグリー)をとる時有利になる特典も付いています。教師を介して担当する子供たちに影響を及ぼそうという考えから、教育活動の対象は、特に教師に重点が置かれています。

③ 子供のための教育活動

学校とは関係なく、動物園を訪れた個人のために、面白いプログラムも用意されています。シンシナティ動物園で、幼児のための「ウサギとカメ」というプログラムをのぞかせてもらいました。これは、45分のプログラムで学齢前の幼児が対象でした。動物



シンシナティ動物園の幼児むけ教育プログラム「ウサギとカメ」の一風景

園内の教室に20人ほどの幼児とその母親が参加していました。訓練を受けたボランティアがイソップの「ウサギとカメ」の絵本を読んだあと、実物のウサギとカメにさわったり、白い綿でウサギのしっぽを作りお尻につけて遊びます。最後はカメの甲らをまねた車に乗って終わるといったたわいのないのですが、子供たちの活発さが印象に残りました。

指人形、お面作り、小鳥の餌台作り、T-シャツに絵を描くといった図画工作教室、人形劇やフォークソングの鑑賞といった具合に、動物に関すること

なら幅広く取り入れたプログラムが組まれています。もちろん直接動物に関するプログラムもあります。動物と環境をテーマにした講義形式のもの以外では、ニューヨークのスタテン島動物園の「動物園で朝ごはん」と題した、動物園で朝食をとったあと飼育係と一緒に動物の餌を作る体験プログラムが参加者の人気が高いようです。これらのプログラムは有料です。しかし、参加費は2~3ドル(250円~400円弱)といったところで、決して高くありません。

④ 成人のための教育活動

動物園のなかで行われている成人のための教育活動も多彩です。通常の入園者のためにはガイドツアーがあります。決まった時間、あるいはある程度の人数が集まると「動物の適応」、「動物園のあかちゃん」、「滅び行く動物」といったテーマでボランティアが話をしながら、1~2時間、園内を案内します。参加者を募って有料で行われる動物や自然についての講演会もあります。サンディエゴ動物園で開かれた夜間成人学校とでもいうべき講演会に、動物園の好意で参加させていただきました。この会は毎月1回開かれており、この日は動物園で行われている動物ショー担当の女性訓練係の話でした。会は夜7時から始まりましたが、200人ほど入るホールはほぼ満席となりました。参加者は夫婦連れが多く、子供は見当たりませんでした。1時間の講演の後、中庭でコーヒーとクッキーによるささやかなパーティーになりましたが、アメリカの成人の夜の過ごし方の一端が伺えて、その点でも興味深く感じました。

⑤ 身体障害者のための活動

精神的、身体的に体が不自由な人のための特別プログラムを用意している動物園もあります。シンシナティ動物園の目の不自由な人のためのプログラムは全盲の女性が担当しています。たいへん素晴らしいプログラムであるとの評判でしたが、時間の都合で残念ながら拝見することができませんでした。

⑥ 地域社会での活動

地域社会にも積極的に飛び出して活動しています。例えば、「お話し動物園」は、動物園ボランティアが婦人会や4Hクラブといった地域社会の会合に出かけ、動物と動物園の話をしをします。「移動動物園」は動物を車で運んで病院、養老院、学校などを巡回するもので、動物を見せながら係員が説明する形を



シカゴ・リンカーンパーク動物園の移動動物園用の車とっています。所要時間は30~60分です。車は移動動物園専用の特別車で、動物の絵がカラフルに描かれています。移動動物園に参加する動物はウサギ、ヘビ、インコといった、おとなしく、扱いやすい動物に限られているようです。

「移動動物園」の特殊な形として、ニューヨーク・スタテン島動物園の「特別な人のための特別な動物」と題されたプログラムがあります。私も参加させていただきましたが、とても感銘を受けました。ウサギやニワトリを持って身障者の社会復帰施設や精神病院をまわります。身障者の社会復帰施設では動物を使ってお互いが協力することを促し、精神病院では、病状がこれ以上悪化することのないように動物を使って患者を刺激します。それぞれ30分ほどのプログラムですが、参加者は月1回の「動物園の日」を楽しみにしていました。このプログラムは希望者が多く、動物園のスタッフだけではこなさきれないため、動物園ではイヌやネコを飼育している人をボランティアとして募集し、訓練を施した後、動物と飼い主を病院に送っています。

繰り返しになりますが、動物園の教育活動といっても、動物に関することだけでなく、動物と動物園を舞台としたいろいろな教育活動がおこなわれていることに、びっくりしてしまいました。しかも、活動の主力は動物園ボランティアなのです。私は、アメリカの動物園教育活動を見学して、教育活動における動物園の潜在能力に目が開かれた思いがしました。

(上野動物園飼育課主査衛生第一係)

☆ 水ぎらい

今年の1月より動物病院の入院動物の担当をさせてもらっていますが、いろいろな動物たちが町で保護されたり、園内の動物が病気などで入院したりで動物の出入りの激しさに驚かされています。

その中で一頭のアライグマは、入って来た頃は元気がよく餌を檻に入れようとすると飛びついて来たものでした。きっとペットとして飼われていたものなのでしょうが、「水」がきらいなのか、ホースから水を出して檻の中をそうじしている時、水をおしりにかけてやるとあわてて檻の網部に登りそうじが終るまで網部に登ったままです。(他のアライグマも水をかけるのはいやがりますが網に登るということはありませんでした。)その様子があまりにもあいきょうがあっっておもしろかったので毎日おしりに水をかけてやりました。おかげでそうじがやりやすく、はかどりました。

今もいろいろな動物(それぞれ個性を持っている)

(飼育課:岡田 博之)



が入院していますし、またこれからも入院してくることでしょう。

そして、僕はそんな動物たちとの出会いを楽しみにしています。

という名前なのか区別がつかなかったけれど、一緒に仕事をしている先輩から「あの鳥の名は？」と突然質問される特訓のおかげで、このごろやっと鳥達の顔と名前が一致してきました。

何もかもが初めての事なのですが、包丁を使うのもその一つでした。

鳥達のエサに、白菜とパンと配合飼料を混ぜるものがあるのですが、この白菜とパンを細かく切らなければならないのです。まわりの人は皆ベテランなので調理場にはトントンという小気味よい音が響いているのですが、僕の場合はうまくはいきません。「ゆっくりでいいから手だけは切るな！」と励まされ、母の苦勞もよくわかるようになりました。

宿直の夜に一人で園内を巡回したり(これは怖かった。)、巣箱やつい立てづくりの大工仕事をしたりで飼育係とは、「いろいろな仕事をするもんだなあ」と改めて感じ入りました。

これから始まる水鳥達の繁殖シーズン。孵卵器には、もう卵も入っています。先輩から「この時期になると卵が割れた夢を見て寝られへんようになるぞ。」とおどされていますが、ヒナが育っていくのを考えると今からとても楽しみです。

(飼育課:久田 治信)



☆ 始めまして……

町では、新入生や新入社員らしき人をよく見かける季節ですが、実は僕も新入飼育係なのです。

最初に担当した記念すべき動物は、バードケージなどにいる初めて見る水鳥たちでした。どの鳥が何

§ ブラックバック次々誕生

先月号の3ページの動物でお知らせしましたようにブラックバックの赤ちゃんが次々生まれています。1月29日のオス誕生を皮切りに2月1日のメス、2月4日のオス、3月に入っても17日にオス25日にメスの赤ちゃんが生まれ、今年は5頭の赤ちゃんが生まれました。



ブラックバックの赤ちゃんは毎年数頭が生まれていましたが、昭和61年度には1頭も生まれなかったため、昭和62年12月にオスを入れ替え、新たに富山ファミリーパークより若いオスが来園しました。そのオスが成熟し今年になってこのオスの子供が次々誕生しています。当園のブラックバックはオス5頭、メス11頭の大家族になりました。

ブラックバックの赤ちゃんたち

§ 新着動物あれこれ

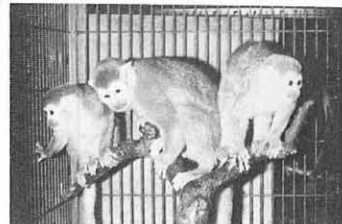
3月9日ショウガラゴのメスが動物交換で来園しました。当園の昭和60年1月の夜行性動物舎オープンに先立つ昭和59年12月に3頭来園したのがはじめてで順調に繁殖し一時は6頭飼育している時もありました。ところが、肺炎などで次々死亡しオス1頭になってしまいました。待望のメスが来園したので再び繁殖させたいものです。

イワトビペンギンが3月11日に4羽、20日に5羽来園しました。これらのペンギンは検疫と餌付けを兼ねて冷房ペンギン舎に収容しています。人に慣れたペンギンは手渡しで餌のアジを食べてくれるのですが、ほとんどのペンギンはまだ自分からすすんで餌を食べようとせず、押さえつけて強制的に餌を口の中に入れてやらなければならない担当者は大忙しの毎日が続いています。

イワトビペンギンの強制給餌

自ら餌を食べるようになれば、皆さんにかわいい姿をお見せできるでしょう。

リスザルが6頭、3月23日に来園しました。当園にはボリビアリスザル



新着のリスザル

現在の飼育動物数

(平成元年3月31日現在)			
哺乳類	13目	102種	417点
鳥類	20目	192種	632点
爬虫類	3目	37種	90点
計	36目	331種	1139点

2頭とボリビアリスザルとリスザルの雑種1頭がいますがいずれもオスばかりでしたので、これらと交代に今回来園したリスザルを展示する予定です。

§ ハワイガンのふ化

3月16日にハワイガンが1羽ふ化し、順調に成育しています。ハワイガンはバードケージ“鳥の楽園”に1ペアを飼育していますが、2月の初旬から繁殖行動が見られ2月4日に初卵を産み、13日までに4個産卵し、抱卵していました。最終卵の産卵から30日目の3月15日に1卵が嘴上げしているのが確認され、翌16日にはふ化直前に、親鳥に踏まれ死亡しているのが発見されましたので、残ったふ化直前の1卵をふ卵器に収容しました。ヒナは自力ではふ化できず、強制ふ化しました。



ハワイガンのヒナ

繁殖したペアはメスが昭和52年にオスが昭和61年に来園し今回が初めての繁殖です。親鳥が育すうに慣れないことと、抱卵している場所に他の鳥が入れないように仮設の柵を設置してはいるものの、多くの鳥と雑居していることが、ヒナをうまく育てることができなかった原因と思われます。今回の繁殖には失敗しましたが、今シーズン中にまだ産卵すると思われるので今後の繁殖に期待したいものです。

ハワイガンは自然界では絶滅に瀕している貴重な鳥であり、ぜひ無事に育てて欲しいものです。

§ 土井園長が定年退職

3月31日付で、コアラ来園のために努力してきた土井良彦園長が定年退職しました。土井前園長は昭和54年6月に飼育課長として着任し、昭和58年6月に園長に昇格、6年間園長を務めました。後任には4月1日付で伊東重朗飼育課長が昇格しました。

● お知らせ

動物のお話とスライドの会

5月21日(日) 日本の動物

6月18日(日) サル島のニホンザル

時間:午後1時~2時

場所:北園レクチャールーム

テレフォンサービス実施中

催し物、トピックスなど魅力たっぷりの動物園の案内を24時間テレフォンサービスで行っていますのでご利用ください。

電話番号 771-9999

* 休園日のお知らせ *

動物園の休園日は毎月第3月曜日(休日の場合は翌日)です。7月までの休園日は下記のとおりです。

5月15日(月)、6月19日(月)、7月16日(月)

開園時間は、午前9時30分から午後5時までで、午後4時に切符売り止めになります。

愛ある暮らし、応援します。

Kintetsu

近鉄百貨店

DEAR LIFE BOOKS



生態・飼育・図鑑が一つの本の 中にギッシリ

中川道朗・岩合徳光/監修
B5変型判・オールカラー
定価580円

動物園で暮らす様々な生き物達、
自然の中ではどんな暮らしをして
いるのか? 動物園での世話
の仕方は? 仲間は? など、
写真と精密イラストをまじえ紹
介します。

くらしといかたシリーズ<既刊本>

B5変型判・オールカラー・各定価580円

むしくらしと いかた

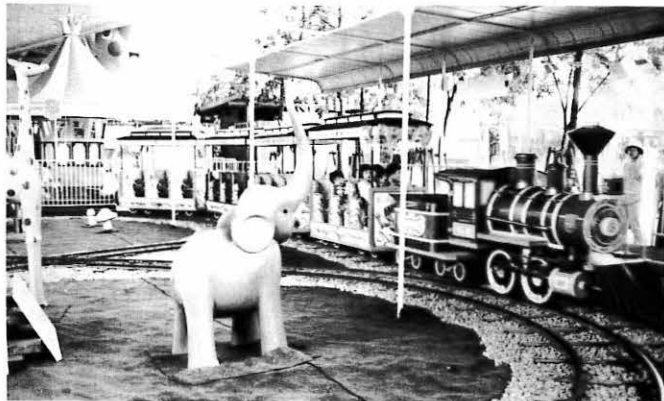
野山でみかける身近な昆虫たち
250種を紹介。

ちいさいきもの くらしと いかた

昆虫以外の小さな生き物を320
種紹介。

お求めは、お近くの書店で。 ひかりのくに株式会社 本社/〒543 大阪市天王寺区上本町3-2 ☎06-768-1151代表

たのしいのりもの、が待っています。



1人1回
100円
(1才まで無料)

団体割引
(30人以上)
……1割引

久竹娛樂株式会社
TEL(06)541-3938(代)

◎園内3ヵ所(南園入口横、北園ステージ横、北園高架下)に各種のりものがあります。

いま、フィルムは 頭脳をもった。



高画質時代をリードする

はるかに美しく



フジカラー SUPER HR

カメラの大林

桜橋本店 ☎341-8091
三番街店 ☎372-5031

平岩米吉著

絶賛三版

猫の歴史と奇話

(定価・2600円)
A5判・260頁
口絵挿画・113図

猫に関する古今東西の科学と文献を網羅し、しかも平易な文章で綴った猫の宝典。著者の三十余年にわたる収集研鑽の成果、ここに結実。

☆学術書でありながら、推理もののように愉しく読める猫の本
☆架空の伝説は別に、猫の珍しい実話400余を収載

主な目次

第一章 猫の歴史

欧州は古代エジプト、日本は宇多天皇から近世まで

第三章 猫の報恩談

蛇を咬んだり、金を運んだりする

第五章 猫の奇話(上)

長命、多産、三毛猫などの形態の奇話

第七章 猫の奇話(下)

マタビを媚薬とする奇妙な習性など

第二章 猫股伝説

老猫化けてさまざまな怪異をなす

第四章 野性猫の存在

裏日本の山猫、離島の山猫、鬱陵島の猫の渡来など

第六章 猫の奇話(中)

長距離の帰家記録や鼠を育てるなど不思議な行動

第八章 益獣としての猫

あらゆる角度から猫の生態と効用を探究

発行 動物文学会 〒152/東京都目黒区自由が丘3-12-2
電話(03)717-1659・振替東京5-9800

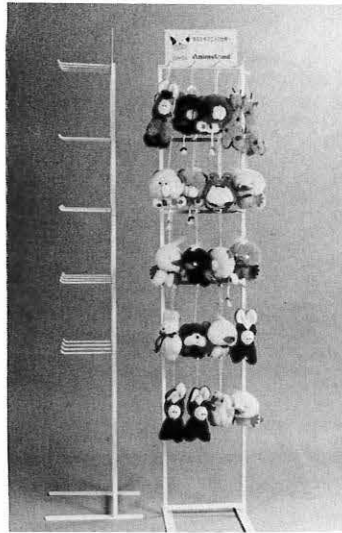
発売 (株)池田書店 東京都新宿区弁天町43番地
振替・東京4-165425

- 貸出品目/ビデオ「動物園へ行こう」
①巻・20分(10本常備)
- 対象/保育園、幼稚園、小学校の先生
- 貸出期間/10日間
- 貸出料/無料(但し、郵送料450円は必要)
- 申込先/当協会まで、電話かハガキで
お申し込み下さい。



大阪市天王寺動物園協会

〒543/大阪市天王寺区茶臼山町6-74 ☎(06)771-0201

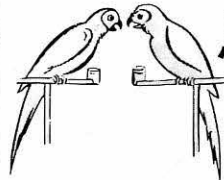


動物ぬいぐるみは 子供のゆかいなお友達

各種ぬいぐるみ企画・製造・卸

有限会社 **アニメランド**

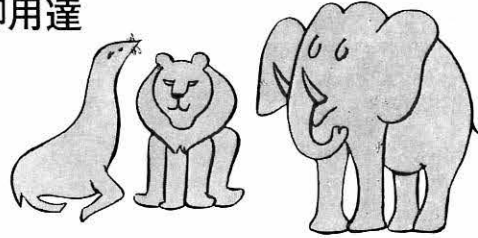
〒547 大阪市平野区西脇4丁目5番22号
TEL: (06)704-8580
FAX: (06)704-8565



鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達

- ・医学実験用動物
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券250円



有限会社 **吉川商会**

本社 神戸市中央区中山手通3丁目11番4号
飼育場 兵庫県小野市来住町1513番地

電話(078)221-8195(代)

たのしい動物のお話は、
ガイドマシン(動物説明機)で、どうぞ!!



園内、主要動物舎
30数ヵ所にあります

関西特機株式会社
電話 06-762-2333
1回 20円

動物園内での お食事、ご休憩は

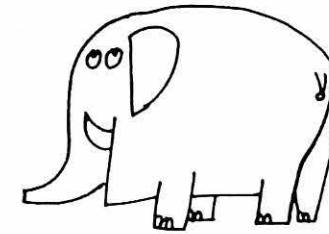
大阪市天王寺動物園内

中央売店

☎ (06) 771-0973



天王寺動物園内



南園売店

大阪市天王寺区茶臼山町6-74
電話 (06) 771-7110番

園内での写真は…

動物園協会指定写真部へご用命下さい!!



カラー写真 キャビネ1枚 500円

撮影無料にてキャビネ1枚をサービスさせて戴きます。
撮影予約も受付しておりますのでご連絡下さい。

◎随時係員が待機して
おりますので説明
に伺いました際は、
よろしくお願い致します。

国際航空写真株式会社
TEL 06-856-7444



唯ちゃんも、
とってもゼリーも、
ますます成長しました。



浅香 唯

フルーツゼリー
とってもゼリー



野生動物をみんなで守ろう

WE SUPPORT WILDLIFE!

天王寺動物園協会の売店に“WWF国際保護動物ぬいぐるみコーナー”が新設されました。このぬいぐるみの売上げの一部はWWFJ(世界野生生物基金日本委員会)に寄付されます。すばらしい野生動物を私たちの手で大切に守りましょう。

ぬいぐるみ販売コーナー新設



お申込み、お問合わせは——
社団法人 **大阪市天王寺動物園協会**
(天王寺動物園内) TEL (06) 771-0201

株式会社 **ファミリア商事部**
TEL (078) 321-0345

●お電話でのお申込みは動物園協会まで。
なお、郵送の場合は実費を負担していただきます。

●WWF(WORLD WILDLIFE FUND)とは?
世界野生生物基金。世界中の危機に瀕している動物たちと、その自然環境を保護するための機関です。



なきごえ 1989年5月10日発行(毎月10日発行)第25巻 第5号 (通巻285号)

編集/大阪市天王寺動物園 〒543 大阪市天王寺区茶白山町6-74
 発行人/大阪市天王寺動物園協会 橋本一郎 電話 大阪 (06) 771-0201
 印刷所/株式会社 松村善進堂 定価100円(送料共) 1年継続(12部) 1,100円(送料共) 振替口座 大阪 37823
 編集委員 (伊東重朗/藤野勝吉/中山良三郎/樽本 勲/中川哲男/斉田 尚/宮下 実/長瀬健二郎/榎原安昭)
 (森本委利/大野尊信/野口秀高/早川 篤/赤松 建/中垣圭史/大川光雄/山下賢二/土谷正道)